

特定行為研修修了看護師が活躍しています

発行元: 足柄上病院看護教育科

特定行為とは、「診療の補助であり、実践的な理解力、思考力及び判断力並びに高度かつ専門的な知識及び技能により、手順書に沿って行う行為」です。(厚生労働省ホームページより)

当院には特定行為研修修了看護師(以下特定看護師)が3名在籍しています。患者さんごとに指示された手順書に基づき、胃瘻交換やせん妄の患者さんへの薬剤投与など、医師と連携した業務を実践しています。専門的な知識・技術を発揮した活動は、患者さんのみならず、一緒に働く看護師にとっても安心した看護実践に繋がっています。

また、2021年2月、当院は特定行為指定研修機関となり、自施設内の特定看護師育成のため、特定看護師が指導者としても活躍しています。



特定行為看護師が指導者となり腹部打診の演習をしています。

共に育とう 共に創ろう 第2章 『患者さんのいつもと違う様子に気付き、先輩に報告しています』

早いもので、新人看護師が入職して約6か月が経過しました。先輩と共に看護をする中で、新人看護師が主体となって看護実践をする機会も増えています。

夜勤研修の開始に備え、6月に「急変時の対応研修」を行いました。『急変の前兆』についてグループワークをしたり、救命率をあげるための効果的なBLSをチーム対抗で実践し、真剣な中にも、楽しみながら研修を終えました。

「急変時の対応研修」受講後の新人看護師に近況を聞いてみました。

急変時の対応研修後、日々の看護の中で意識したり、活かしていることはありますか？

研修前から、患者さんの様子が「なんとなくいつもと違う気がする…」と感じることはありました。研修では、この「いつもと違う」という些細なことが、急変が起こる兆候の気付きへのひとつになりうることを学びました。そのため、何気ない患者さんの言葉や訴えに着目し、患者さんが症状を話しやすいよう、意図的に会話をしています。そして、自分が感じ取ったありのままの患者さんの状態をペアの先輩と共有したり、確認することを心がけています。

また、患者さんの発言や表情など、1つの気がかりから関連づけて他の症状や状態を観察し、先輩に報告できた時、研修での学びを活かすことができているなと感じます。



いざ、実践！！

「急変時の対応研修」は、1か月ぶりに同期が集まる機会にもなりました。それぞれの配属先で頑張る身近な同期の存在についても聞いてみました。

研修の学びや日々の実践について、どのようなことを同期と共有しますか？

お互いに経験したことや看護実践、反対に経験したことがないケアや初めて取り扱う医療機器で留意する点、焦ってしまったことなどを共有することが多いです。また、先輩からもらったアドバイスも共有します。

一緒に入職した同期は、どのような存在ですか？

仕事でうまくいかなかったことなど、体験談をお互いに話すことが多く、それがよいガス抜きになっていると感じます。気軽に相談できるので、心強いし、心を和ませてくれる存在です。これからも、お互いに、それぞれの場所で学んだことを共有していきたいです。

新人看護師は、「患者さんがいつもと違う」という自身の感覚を、急変の前兆に結び付けていました。そして、日々の実践で観察や意図的な会話に繋がっていること、さら気付きを先輩と共有していることを聞き、頼もしくなってきたなあと感じます。また、先輩だけではなく、同期とも、学びや経験したことを共有しあい、うまくいかない時には励まし合う…。共に育ち、心が和む仲間がそばにいていいですね。

院内研修は、看護実践の学びだけではなく、共に学ぶ仲間の存在を認識できる機会にもなると感じました。



急変の前兆や効果的なBLSをみんなで考えます

2022年2月・3月インターンシップ開催予定
申し込みはこちらから→

